

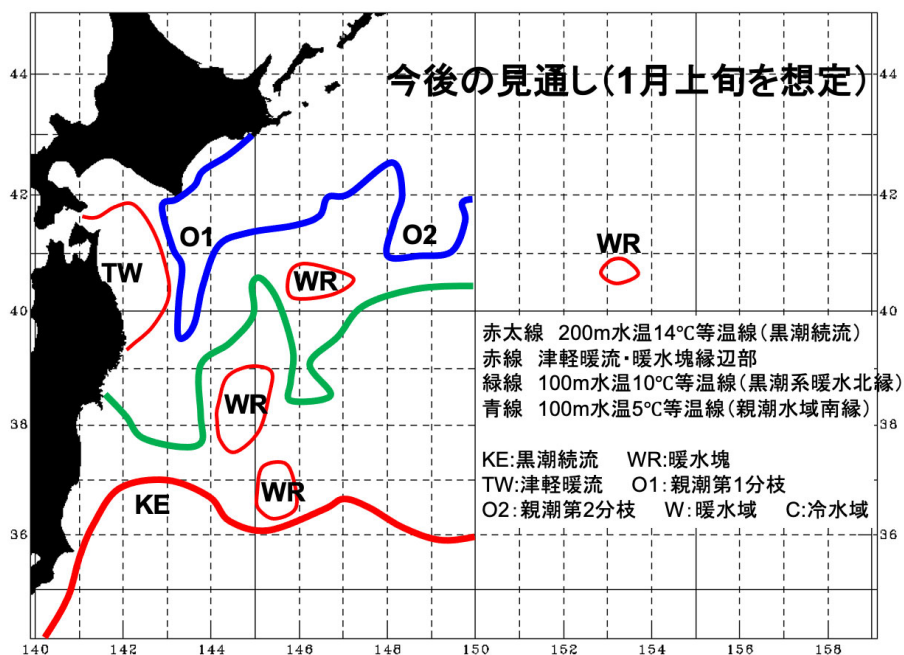


2021年度 第4回 東北海区海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2021年12月中旬～2022年1月)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移する。
- ・ 根室南東沖の暖水塊は停滞する。金華山沖と常磐沖に暖水塊が形成される。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜） 森永

海洋環境部（塩釜） 栗田、長谷川

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度東北海区海況予報 第4号

《今後の見通し（2021年12月中旬～2022年1月）》

近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～かなり北偏で推移し、親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移する。根室南東沖の暖水塊は停滞し、三陸はるか沖の暖水塊は東進する。金華山沖の暖水塊は消滅するが、金華山沖に新たな暖水塊が形成される。常磐沖に暖水塊が形成される。

《海況の経過（2021年9月～2021年11月下旬）の特徴》

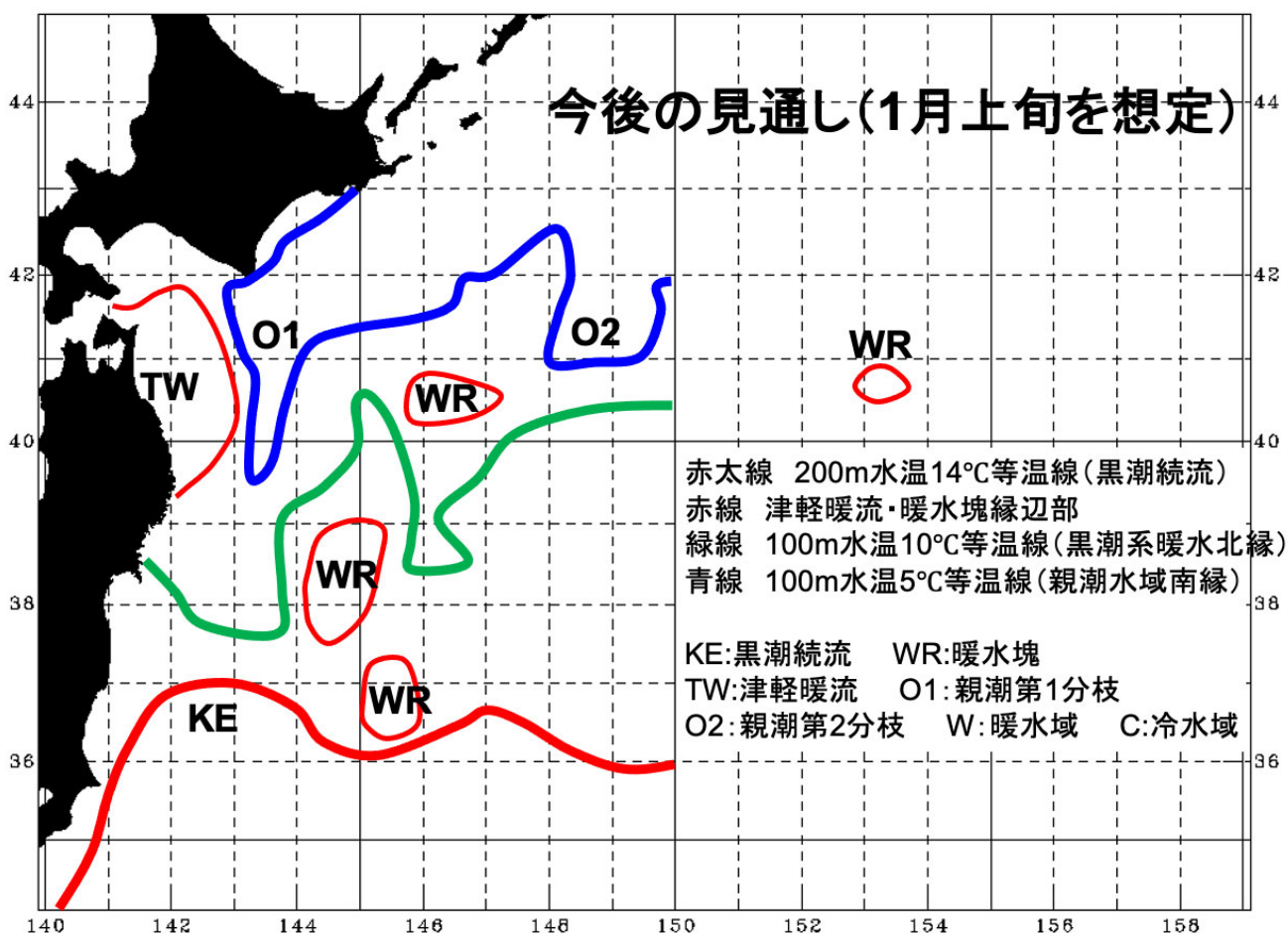
近海の黒潮続流の北限位置はやや北偏～極めて北偏で推移した。親潮第1分枝の張り出しは平年並み～かなり南偏で推移した。根室南東沖の暖水塊は停滞し、三陸はるか沖の暖水塊は西進した。金華山沖の暖水塊は停滞した。

《現況（2021年12月上旬）の特徴》

近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏、親潮第1分枝の張り出しは平年並みである。暖水塊が根室南東沖と三陸はるか沖と金華山沖にある。

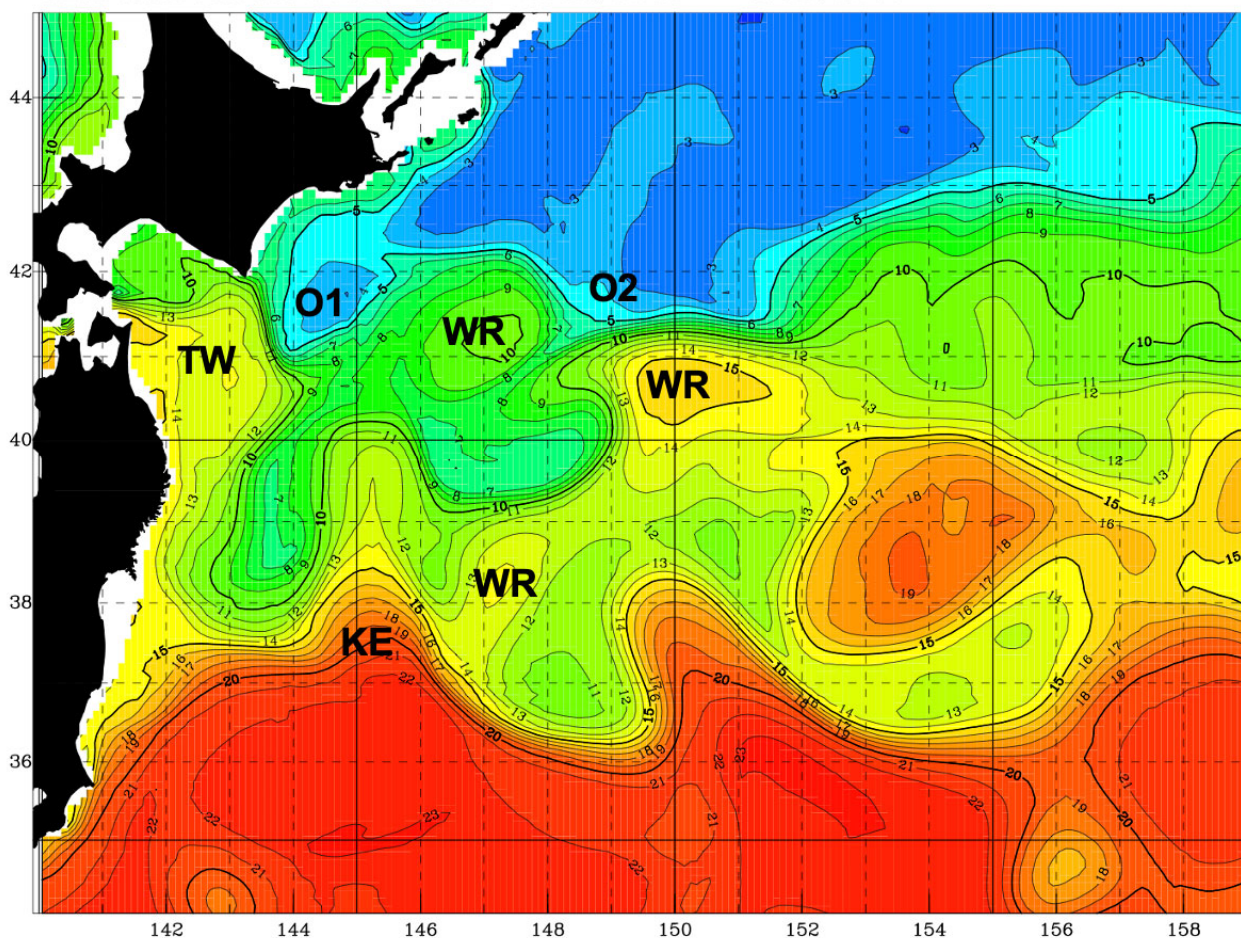
（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

1月上旬予測水温分布図



12月上旬現況水温分布図 (100m深)

TEMPERATURE AT 100m DATE: 2021/1201 - 2021/1203



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--